

コロナ感染第6波に備え対策強化を

8月下旬のコロナ感染第5波では全国で医療崩壊が進み、自宅療養を余儀なくされた患者が、必要な医療につなげられずいのちを失うという事態が相次ぎました。

豊橋市においても新規感染者が連日100名を越し、自宅療養者数が最大671名まで増加しました。そのような危機的な状況の下、保健所の現場は、自宅療養者への電話での健康観察や必要な医療につなげるなどの対応に追われました。体調が変化する自宅療養者に迅速な対応できないケースも発生し、また、外国人感染者も急増する中、通訳システムが混雑し疫学調査が長時間に及ぶことも発生しました。

第5波の状況を踏まえ保健所の職員を増員

そこで、第5波の状況を踏まえ、健康観察を行う看護師5名と、外国人患者に対応するポルトガル語通訳者1名を新たに配置されることになりました。

感染第6波に向けた豊橋市の対応

◎自宅療養者の健康観察を強化するため、パルスオキシメーターを増やし1000台

にする。

◎クラスターを早期に発見するため、濃厚接触者以外の方が使用する検査キットを備える。

◎3回目のワクチン接種に向けて、システム改修などの準備を進める。

現在、豊橋市の感染者数は一桁台になりましたが、まだまだ今後のコロナ感染拡大が心配です。感染第6波に備え、医療・保健所体制の強化、大規模検査の実施などが必要です。市民のいのち、健康を守る取り組みを引き続き求めていきます。

(中西みつえ)



まちなか図書館のイメージ図、ほぼこの通りです

まちなか図書館がよいよオープン

27日のオープンに先立って、11月9日に内覧会が行なわれました。完成間近の「エムキャンパス」という再開発ビルの2階と3階に入っていて、外からもエスカレーターで入館できる構造になっています。

とにかく広い

4000㎡という広いスペースに現在の蔵書数は6万冊、10万冊をめざし、2～3年でそろえていくということでした。(ちなみに中央図書館の蔵書は開架書棚19万冊、閉架書棚48万冊です。)館内はウェルカムゾーン、アクティブゾーン、リラクゼーションゾーンなど5つのゾーンにゾーニングされています。スタッフはコンシェルジュという名称で呼ばれ、とにかく横文字が多いのが特徴です。カフェもあり、午後8時までの営業、図書館は9時までです。

多種多様な椅子やテーブルが並べられている

設計を担当したのはアメリカに本社を置く、世界最大級のゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッド社。同社に一括で発注したという椅子・机は座り心地もよく、リラックスできそうなものばかり。各ゾーンに置かれています。いったいいくらかかっているのか、かなり気になります。この椅子と机は、長時間の占有を防ぐため、携帯や館内の端末からの

予約制だそうです。

おしゃべりや、子どもがとびまわるのは自由

キッズスペースにはおもちゃもあって自由に遊べ、おしゃべりも自由です。眉をひそめないよう、固定観念を変える必要があります。

まだ、一般公開前なのでまず、内覧会で見た全貌のうち的一端を紹介しました。従来の「図書館」のイメージをもって行くと裏切られます。一言で表現すると「イベントやカフェのあるおしゃれな本屋さん」(あくまでも個人の感想です)。私は、図書館は本を読むところと思っています。たまたまいや落ち着き、心地よい静けさなど中央図書館の良さが再認識させられました。

「まちの賑わいの創出」という役割を担った「まちなか図書館」には、小説や文芸書はあまりなくて、雑誌や、図鑑、アート、趣味などの本が中心です。「使い方はあなた次第」とうたわれています。

床の購入費と内装工事、備品購入費で、約35億円(本の購入費はどうなっているのか聞かなければ)、年間50～70万人の来館者をめざすまちなか図書館が、今後、豊橋市民にどのように受け入れられ、育てられていくのか、注目していきたいと思えます。皆さんも一度お出かけください。

(鈴木みさ子)